栩野正喜の勁草塾・・「ちょっとの差」

長い盆休みの方も多いと存じますが、
終盤になって、如何お過ごしでしょうか。

個人的には東京の次男一家が帰省してくれて
楽しい時間を過ごせたが、
一方、体力的に疲れを実感しているのが現実です。

さて、私の大恩人である故福井社長は
「栩野君、なんでも、ちょっとの差だよ」
教えて下さったのを思い出します。

例えば、コンピュータを買い替える時に
必ず、目一杯の構成にして、4年間で不足するように
システム開発する事を教えて下さいました。

社長曰く「新車〇〇台売ればいいんだ」

まぁ、景気のよかった時だったので、
高い買い物も「クルマ、売ればいい」という感覚だった。

最近は長いデフレからインフレへの転換期に来ているが
どんな「明日」が待っているか楽しみでもありますが、
「売れば良い」という経営感覚には程遠いと思います。

しかし、「ちょっとの差」が運命を変えることもあるのです。

少しでも蓄えがあれば、
チャンスの時に「前向き」になれるし
相手にも「好印象」を持って頂ける
というプラス現象になります。

「前向き」になれば、いろんな経験値を蓄積できるし
その中から「縁・運・つき」の3拍子揃った出会いも生まれる
という善循環になります。

そして、「好印象」は運命の歯車を良い方向に回転させて
「運」や「つき」がやって来るのです。

その逆では、つまり、「貧すれば鈍する」というように
マイナス志向になり勝ちで悪い歯車が回ってしまうのです。

「少しでも蓄え」と言いますが、
金融機関から見れば「与信」を積み増すことが出来るし
その「与信」で借入を増やせば、金融機関も助かるし
余裕資金ができるのでチャンスに対処しやすい
という「信用」のメカニズムが稼働するのです。

今後、世界事情の動きが不透明な状況ですが
「少しでも蓄え」が出来ているか否かの「ちょっとの差」が
企業や個人の命運を分ける可能性が大きいので
平素の「ちょっとの差」を大事にしたいと思っています。

【勁草塾のバックログはホームページにあります！】